

特集

鈴木先生への オマージュ

memorial interview

典礼と音楽とお話で、急に近くなったような感じを受けたことでしょう。それはとても大きな意義がありました。今後も、来年に向けてメモリアルイ

鈴木先生の先見の確かさをあらためて思います

国際教養大学理事長・学長

中嶋 領雄先生

ヤーというところで、いろいろな催しがあります。松本でのこのコンサートとミサがあったことが、何らかの影響を及ぼすと思います。鈴木先生を思い

出して、偲ぶだけではなかったことが、会にとっても、大げさですが日本人にとっても良かったと思います。

松本での開催がまずよかった

メモリアルコンサートは素晴らしい内容でした。まさに鈴木先生の没後10周年にふさわしい内容でしたし、皆さん、あんなにたくさん来てくださって、本当によかったと思います。500人近い子どもさんも含め、各地からお客様がいらつしやっつしたし、鈴木先生も喜んでいらつしやるのではないのでしょうか。諸外国からのお客様もお話しましたが、皆さんとても印象深かったと伺いました。何より松本で開かれたこと、松本城や、北アルプスをはじめ豊かな自然のある、この松本は非常にいい地です。そういうことにも惹き付けられたそうです。いろいろな面ですともよい機会だったと思います。

「徳育」「幼児教育」の実践

今回は没後10周年でしたが、スズキ・メソッドは、現在活きている音楽を通じて一つの教育運動ですから、そうい

う意味で鈴木先生の業績を偲ぶとともに、やはりこのスズキ・メソッドを世界に広げていきたい、日本でもっと理解してもらいたいという意味が込められていたと思います。私自身も教育に関係していますけれど、今、日本の社会で、教育はとても大きな問題を抱えています。今の社会的状況を見ればおわかりになるでしょう。

その時に鈴木先生の「どの子も育つ、育て方ひとつ」ということや、あるいはきちんと挨拶したり、礼儀を知るところから始まるというようなことは、1月31日に出される教育再生会議の最終報告の中でも「徳育」として強調されています。また今回初めて幼児教育が、学校教育とは別に、きちんと位置づけられました。そういう意味からも、今、日本の教育界そのものが大きな転機にあります。

21世紀に活かされる

その時に鈴木先生の先見性が改めて

浮き彫りにされることの意味が大きいと思いますし、大きくはないといけないと思います。ようやくにして、鈴木先生の語されたこと、書かれたものが、これから21世紀の知的基盤社会で活かされる。そうでなければいけないと思うのです。



鈴木先生への オマージュ



鈴木先生のお力はストップしません

恩師以上の存在でした

鈴木先生は、私が勉強していた時から、また、外国に行っていた時も、帰ってきてからもコンサートに来てくださったりと、ずっと見守ってくださったりと、いろいろなおことが思い出されて、特にコンサートでは映像やお言葉が流れて感動しました。もちろん亡くなられてからも、ずっと見守ってくださっていると思っています。鈴木先生は、私にとつて、恩師でもありましたが、お父様のようにかわいがか

てもございました。

今でも覚えていますのは、正岡純子先生と、カナダに行った大迫庸子先生と、三羽ガラスと言われていた頃、富山だったと思います。鈴木先生とみんなで講演とコンサートに行った時に、私は何かの弾みに指にケガをした。ちよほど左手で弦を押さえるところを切って「弾けない」と言っていたのです。そうしたら鈴木先生が「どれどれ」とおっしゃって、ご自分の手を当ててくださいました。そうしたら本当に痛くなくなり、そのまま弾いたことを覚えていきます。9歳か10歳くらいだったでしょうか。

発展を願って

こんなにたくさんの皆様がお墓にもお参りにいらして、昨日のコンサートには500人近い子どもたちが集まられたかと。私は懇々と同時に、会が発展していくことを願っています。私の住んでいるベルギーでも、友人たちがあちこちで教えていますし、ヨーロッパでも盛んになってきましたね。やはり鈴木先生の精神やお力はストップしませんから。どんどん、どんどん発展していくと思います。教え子たちが、世界中のいろいろなところで活躍しているのも嬉しいことです。

いつもニコニコしていた鈴木先生

クラリネット五重奏曲

演奏したモーツァルトの「クラリネット五重奏曲」を、鈴木先生がベルリン留学中にクリンゲラー・クアルテットの演奏で聴き、たとえられないほどの感動を味わわれたというエピソードは、実は今回初めて知りました。

この曲を聴かれた時に、「肩から先の感覚がなくなる」というような独特な

ヴァイオリニスト・ヴィオリスト 桐山建志さん

表現を使っていらいやいですが、心底感動したら拍手なんかできない、手なんか動かない、というように思います。もちろん、最後がどういいう風に終わるかという、曲にもよりますが、「クラリネット五重奏曲」は華やかに終わりますから、普通はその勢いで拍手が起るのではないのでしょうか。

メンバーの方とは、昨年の夏期学校で、ブラームスの「ピアノ五重奏曲」

を演奏した時に初めてご一緒しましたが、皆さんとても個性豊かな方で、共演させていただいて本当に面白かったです。

それから、クラリネットとヴァイオラはとても密接な関係にありますね。ほとんど音域が同じですし、例えば、ブラームスの「クラリネットソナタ」では、ヴァイオラで弾いてもいいように書かれているくらいです。

特集

鈴木先生への オマージュ

Shinichi Suzuki
Memorial Year
10th &
2008-2009
110th

まつもと市民芸術館で開催されたメモリアルコンサートの舞台には、鈴木先生愛用のヴァイオリンとお好きだったタバコの銘柄がデザインされたクッションなどがディスプレイされました。

コンサート、そして翌26日のご命日に行なわれた追悼ミサでは、鈴木先生を偲びながら、スズキ・メソッドで育つ私たちが、未来に向けてさらに大きく羽ばたく姿を確認し合うことができました。

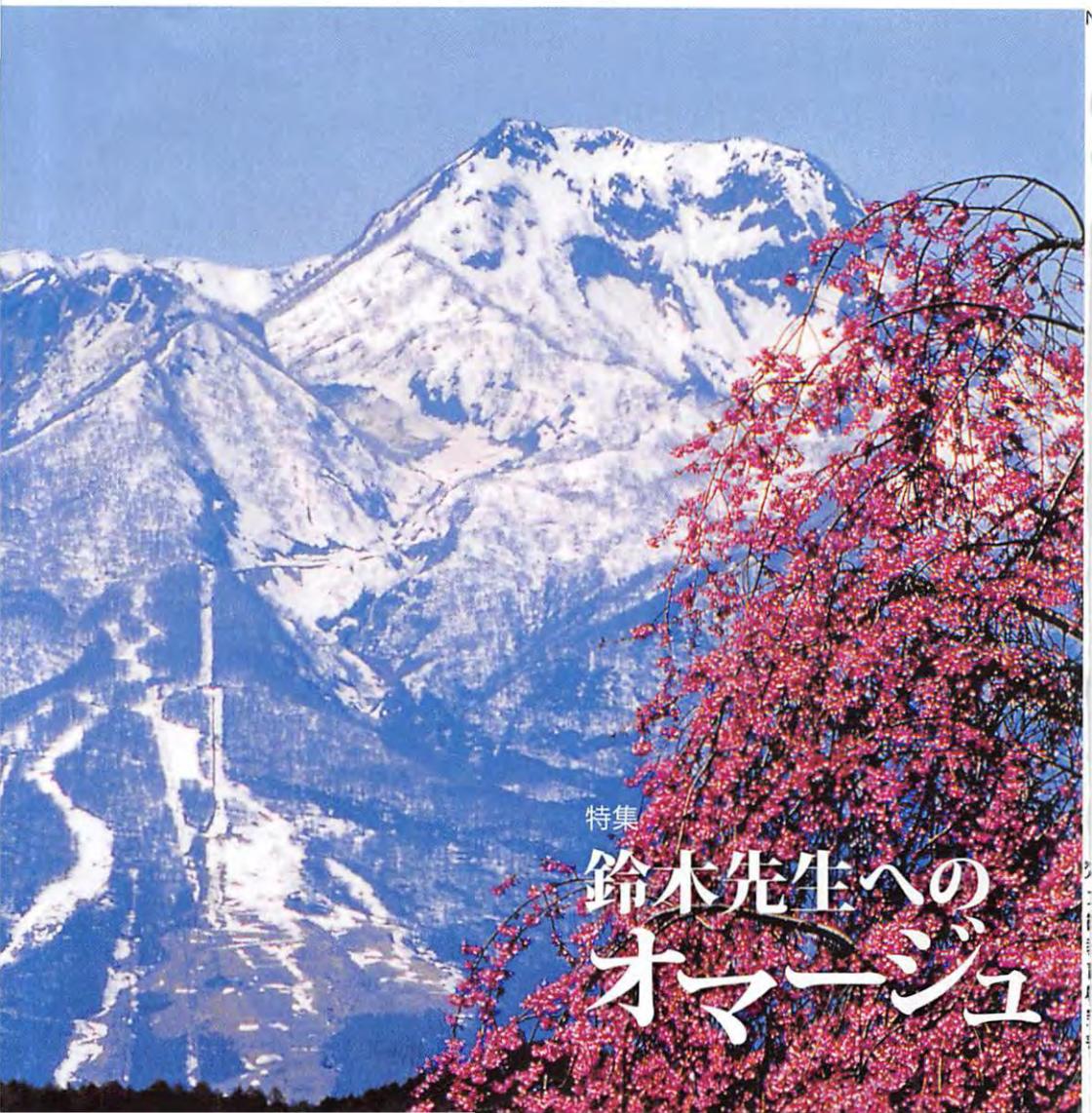
この特集では、この2日間に参加した多くの方々からのコメントを掲載しました。それらを通して、あらためて鈴木先生のこと、いろいろな思いを馳せてみたいと思います。

オマージュ (homage) とはフランス語で、芸術家などに捧げる敬意の気持ちを表す言葉

Suzuki Method

才能教育 No.163 春 2008

先輩こんにちは 大谷康子さん (ヴァイオリニスト)
マンガ版 鈴木鎮一物語 第11回 いよいよ第1回全国大会開催



特集

鈴木先生への
オマージュ